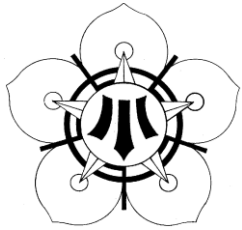


地域と家庭と学校が一つになって子供を育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生第七小学校ホームページ

<http://fussa-7e.hs.plala.or.jp/>

福生市立福生第七小学校

令和4年度 学校だより

発行責任者

校長 山岸 史子

所在地

福生市北田園一丁目1番地1

令和4年5月2日 発行

「一緒に生きていく」ということ

校長 山岸 史子

新年度となり一ヶ月が経ちました。子どもたちも新しい仲間や環境の変化にも慣れてきたところですが、同時に、張り切って使い果たしたエネルギーをチャージしたいと思う頃でもあるかと思います。この連休を有効にご活用いただけたら有り難いです。

さて、七小は3年生になるとホタルの学習をします。「ホタルの」というよりも「ホタルを通して」学ぶというのがぴったりです。学校の東側のハケから流れ落ちる「縞屋の滝」の水を引いている、校庭東に位置するビオトープ。地域の方々が、田園の名にある通り以前は自然に生息していたホタルを七小のビオトープに復活させるプロジェクトを、子どもたちと共に起こしてくださっています。ホタルを飼うのではなく、同じ環境に暮らす生き物仲間として見つめていくことで、自分たちが生きていく環境を考え、持続可能な社会の実現に近く入り口として学んでいくのです。

4月21日に、CS委員長の板垣和生さんと日本ホタルの会理事の後藤洋一さんが、3年生の授業をしてくださいました。ホタルとはどのような一生を送るのか、何種類のホタルがいるのか、どのように生活しているのかなど、映像を交えながらお話をしてくださいました。



そのあと、いよいよホタルの幼虫たちとのご対面。テントウムシの幼虫と姿の似ているゲンジボタルとヘイケボタルの幼虫を入れたビーカーを一人ずつ受け取り、比較しながら観察しました。動いている足、体、後ろの先についている吸盤のような尾脚など、角度を変えながら優しいまなざしでじっくり見つめる3年生の子どもたち。iPadで幼虫撮影会も済ませ、大事に大事にビオトープまで連れていき、そっと放流してあげました。「もちろん、ホタルが光りながら飛んでいく姿は美しい。でも、大切なのは、その命をつないでいくこと、そしてそのためには多くの生き物の命も関わっていること。人間もその一部であること。その人間である私たちは何をしていけば一緒に生きていけるのかを考え、行動できる人になっていくことが大切です。」と板垣さんと後藤さんはおっしゃいます。

様々な環境の変化、考えや生き方の違いがある中で、一緒に生きていくことは容易ではありません。それは人間同士でも同じではないでしょうか。だからこそ、お互いを知ろうとし、分かり合おうとする必要があります。自分には理解しがたいところは話し合ったり、第三者を交えて折り合いをつけたりしながら、努力をしているのだと思います。学校の中で、子どもたちは毎日、これを繰り返し成長を続けています。ホタルを学んでいくことで、「一緒に生きていく」ということはどういうことなのか、自分には何ができるのかを考えていくきっかけとなることを願っています。

